

師に学び，皮膚を楽しむ。 なんで?なんで?を忘れない

壽 順久

大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学教室助教

ワークライフバランスって？ とりあえずググってみた。ワーク・ライフ・バランスとは、1人1人の人が自分の時間を、仕事とそれ以外で、どのような割合で分けているか、どのようなバランスにしているか、ということ(Wikipedia)。自分自身では、正直あまり考えてこなかった。でも、仕事人間で家庭を顧みないような生活を送っているかというところでもない。

僕の周りを見回してみると、いろいろである。ずっと勤務医をしている人もいれば、とっとと開業した人もいる。パートで働いている人もいれば、医師業を完全にやめた人もいる。過去のエッセイストを眺めてみた。中島喜美子先生と中島沙恵子先生の“W中島”先生、片岡葉子先生、岸部麻里先生、高山かおる先生、峠岡理沙先生…プロ野球でいうとみなダルビッシュ級、なかなか真似できる先生ではない。大阪大学にも怪物はいる。金田真理先生…今年で定年だけど、いまま朝8時前に来て、夜帰るのはいつも1時過ぎである。ちなみに4人の子どもを育てたママさんDr.でもある。恐ろしい。共通していえることは、彼女たちは皆仕事を楽しんでいる、と思う。苦労やしんどさもあるが、自分の仕事を“やりたいこと”にしている。皮膚は5年や10年ではとうてい理解できるものではないし、噛めば噛むほどスルメのように味の出る臓器だと思う。味が出る前に噛むことをやめてしまうと、たぶん皮膚は楽しめない。

さて僕であるが、略歴を書いてみる。

2001～2002 大阪大学消化器外科(独身)

2003～2004 大阪大学皮膚科(結婚) 師匠:片山一朗先生, 室田浩之先生

2005～2006 都立墨東病院(単身赴任, 子ども1人) 師匠:沢田泰之先生, 西山茂夫先生

2008～2012 大学院(専門医取得, 子ども3人) 師匠:種村篤先生

2013～2015 アメリカ留学(家族同伴, 子ども4人)

2016～ 大阪大学皮膚科(子ども5人, 病棟医長, 医局長) 師匠:藤本学先生

私生活は, ヨメの実家にマスオさんして, 5人の子どものパパをしている。

片山先生や室田先生に, 膠原病診療のいろはを教わった。膠原病に興味をもった僕は, 当時1歳の長女とヨメを兵庫に残して, 単身赴任で東京に赴いた。いまの僕の主となる専門分野は, 膠原病, 創傷治癒, フットケアであるが, その礎は, 墨東の沢田先生との2年間で築かれた。

墨東にいたときに, 西山茂夫先生に「皮膚を縦にみなさい」と教わった。皮疹をみたときに常に病理組織像を思い浮かべて, その人の皮膚でいったい何がおきているのかを常に考えなさい, ということなのだが, 僕の皮膚科診療をするうえでの座右の銘の1つになっている(いまだにできないけども…)。

前教授の片山先生をはじめ, 室田先生, 沢田先生, 西山先生, 種村先生, そして現教授の藤本先生に皮膚の不思議, 免疫の不思議をたくさん教わってきた。いまでも勉強中である。なんでこんな皮疹ができるのか? なんでシワができるのか? なんでキズが治るのか? なんで?なんで?がたまってしまって大学院に進んだが, 解決することはなく, 疑問は増える一方である。好奇心や興味は増す一方で, 答えが出ないので飽きることはなく, いまだに興味をもって皮膚をみることができる。

子どもに物事の興味をもたせるのは親の仕事であるように, 師の仕事は, 弟子に皮膚への興味をもたせることかなと思う。逆に弟子は, 師をみて学び, 皮膚を楽しめるようになってほしいと願う。皮膚を楽しめるようになれば, 自然と仕事は楽しくなり, 好奇心をもって皮膚科医を続けられるんじゃないかと思う。阪大で4年間医局長を続けてきて, いろんな理由で途中脱落した人をみている。このエッセイが皮膚を楽しめるようになるきっかけになったら嬉しいなと思う。